

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201025		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム三保松原 (1F しおん)		
所在地	静岡県清水区三保2432-2		
自己評価作成日	平成24年8月10日	評価結果市町村受理日	平成25年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kami=true&ligyosyoCd=2274201025-008PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホーム三保松原は、その都度入居者様の立場になって考えること、全体研修などを重ねてスタッフ一人ひとりのレベルを向上させることが、入居者様、ご家族様の幸せ度、満足度の向上に繋がるということを認識し、グループホームとして、入居者様が安心してご自分の自宅と変わらないような生活を送っていただけるようにお一人お一人の想いを、私達スタッフが共有し、さりげなく支援させていただきたいと考えております。地域との交流や清掃活動も継続し、地域の皆様からも必要とされるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な松原を抜けると、モダンなミニ庭園と貝殻で作ったウエルカムボードが訪問客を出迎えています。施錠のない玄関を進むと、職員の快活な声と笑顔でさらに「歓迎の意」を受けとめ、気持ちよく訪問・滞在できる事業所です。利用者のモチベーションを上げるために職員が制作したボードや移動の際の声がけなど、機能訓練やADL維持を大仰に掲げているわけではありませんが、随所に丁寧な取り組みがみられます。また、利用者を交えた掃除を行事化していて、楽しく取り組む一方で衰えのある動きがあれば対策を講じる機会としています。通りすがりに手を握ったり、用事をお願いするなど、集団の中にあっても独りになっている利用者への細やかな気遣いも感心したことの一つです。職員指導が丁寧になされていることとチームワークの高さに秀でていることを十分受けとめることができました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフが運営理念に基づいた credo を所持すること、出勤時に唱和することで、運営理念を意識するよう心がけています。	「身につける3つの力」「5つの習慣」「全社員への約束」など法人本部が推進する大切なことを全職員が携帯し、また全体会議でテストを繰り返し、共有化しています。職員の言動にも変化成長が現れてきているとのことです。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、近隣の小学校や保育園との交流を図り、地域の一員として暮らせるように努めています。	海岸のごみ拾いを定期的におこなう「三保きれいにし隊」を立ち上げて3年目となり、地域の清掃でも声を掛けてもらえるようになっています。また、小学校の学習発表会や運動会に招待してもらったり、園児の訪問があるなど双方向の交流が定着しています。	隣近所が少ないため地域を広域にとらえることも一考です。例えば、今後は企業との協力関係を築くことも期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所から地域への発信はまだ不十分です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、サービスや地域とのつながりの向上に努めています。	議事録を事業所内に掲示、情報を共有しています。運営推進会議では貴重な意見が挙がっていて、運営に役立っています。例えば、DVDを使った防災の勉強会も会議での意見交換がきっかけとなったものです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の提出以外では積極的に交流は図れて居ないのが現状です。	市が発行する「介護相談員だより」などの情報紙や研修会の案内を事業所内に掲示しています。介護相談員も受け入れています。利用者の話し相手のほかにも事業所へのアドバイスももらえ、運営に活かしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的研修を行ない理解を深めています。各ユニットのドアの開錠時間も徐々に延ばしています。	法人本部の方針を携帯し、また実践に反映させていくなかで、職員一人ひとりの自律が育っています。ニュースで取り上げられた事例を皆で話し合ったり、知識テストを繰り返し、自らを振り返る機会をつくるよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的研修を行ない理解を深めています。各ユニットのドアの開錠時間も徐々に延ばしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度をご利用されているご入居者様はいらっしゃるが、制度の内容を理解しきれていないと思われるので、今後、全体会議のテーマとして勉強会を開催していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明をさせていただき、納得していただいていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年アンケートを実施し、いただいたご意見から改善を図っています。	法人本部で年1回アンケートをとっていて、要望については課題として速やかに取り組んでいます。内装業の家族が竹をアレンジした壁掛けや置物をつくってくださっていますが、これは「飾りたいものがあるんですが…」との事業所の投げかけから始まったもので、双方の協力関係が覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年アンケートを実施し、改善に向け取り組んでいます。	全体会議と各ユニット会議があり、職員の主な意見を収束しています。1階と2階の職員を入れ替える試みは、全職員で18名の利用者に関わっていききたいとの管理者の想いからですが、「目線を変えた意見や提案がでるのでは？」とのねらいもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とスタッフの会話の時間をできるだけ作り話しをしたり、必要に応じて個別の面談を行なうなど取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では毎月の全体研修を行ない、又、外部の研修へはシフトの調整がつけば参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、管理者同士の交流にとどまっているが、今後はスタッフ間での交流を図れるようにしていきたいと考えています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを何度か実施してご本人のニーズを把握して安心してご入居していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居に至るまで何度か機会をもち、要望、ニーズ等を引き出せるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム長、ユニットリーダー、ケアマネジャーでご本人、ご家族様に必要な支援を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは、自宅での生活の延長上にあり、自宅で過ごすのでできる限り同じ間隔で居ていただくこと、スタッフはそれをさりげなく支えさせていただき黒子のような立場にいる事を意識してケアできるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の協力なしでは、ご本人様の満足は得られないと考えていますので、毎月の手紙や、電話、面会時など声をかけさせていただき、情報を共有し、より良い関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話、ご家族との外出など、馴染みの関係が途絶えてしまわないように配慮しています。	実家に帰ることもあれば、また墓参や外食など家族が日常的に関わってくれているため、在宅の延長線にあるかのような関係が結べています。在宅時からの趣味の継続で居室にプランターをおいたり、好みの銘柄の新聞をとっている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の相性や性格なども考慮しながら、スタッフが潤滑油になれるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人に面会をさせていただいたり、電話などで連絡を取らせていただいたりと必要に応じて契約終了後もできる限りの支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の想いの理解、把握をホームのビジョンと掲げ、全スタッフがその都度考えるよう努めています。	「個にスポットをあて、それを集団に投げかける」「集団における個それぞれを尊重する」といった質の高い技術をもって、笑いの起こるリレーションができています。職員の言動で気づいたことは直ちに指導しているとのことですが、それをさらに研鑽しているであろう職員に感心しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント、入居後もご本人、ご家族からの情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、日報等を活用し、日々の変化を共有しながら把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、サービス担当者会議や日々の意見交換からご本人にとって必要なケアプランになるよう努めています。	これまでも担当制がありましたが、担当者に家族と積極的に会話をもってもらうことを始めています。適正な運営をめざし、方法は常に検討しています。その中で「担当者は気づきシートを作成した後、ユニットリーダーとマンツーマンで話し合い、ユニット会議にのせる」という方法を確立しつつあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、介護記録、申し送りノートを活用し、情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービスにならない様に、グループホームで生活する意味、個別支援の重要性を認識し、できる限り柔軟に対応するよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、散歩、外食、清掃活動など地域に積極的に出かけられるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と連携を密に取り、ご本人に必要な医療が受けられるよう支援しています。	在宅時からのかかりつけ医の場合は家族が付添っていますが、必要に応じて書面を渡したり、管理者が同行し説明することもあります。協力医の往診が月2回、契約看護師の訪問も週2回あり、健康管理に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が正確な情報を得て判断できるように看護師の出勤時、もしくは電話での相談にて情報交換、情報の共有を心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も頻繁に面会をさせていただき、病院NsやDr、ご家族様と情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に重度化された場合の指針を説明させていただいています。ご本人様の状態に応じて主治医、ご家族様と相談を重ねて対応を決定しています。	医療行為が必要になった場合は事業所での継続は難しく、他をご紹介することは家族の合意を得ています。老衰が緩やかに死に向かうといった看取りについては、家族の意向にできる限り応えたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが同じように対応できるよう全体研修を続けていく必要があると思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の際は屋外、地震の際はホーム2Fへの避難訓練を実施。地域の防災訓練への参加も重ねているが、地域性を考えると自衛の為に訓練を強化していきたい。	外に誘導することを実施するために、1階が発生場所という訓練に繰り返し取り組んでいます。今後は散歩を兼ねた避難訓練をおこなうことを検討しています。近くのデイサービスが開催する防災訓練に誘ってもらい、協力関係も芽生えてきています。	近隣に住宅が少ないため、事業所や消防署など関係機関、団体と連携した取り組みについての検討も期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の性格や生活暦を把握し、尊重して支援させていただくよう心がけています。	利用者に関心をもって接することで自然な形で気づきが生まれると考えているため、職員には「関心をもつように」と、常に言い続けています。トイレのドアを開けておく必要のある利用者のために、防火カーテンをつけ羞恥心に気遣った例もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様の想いを尊重できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅で生活をするのと同じように暮らし、感じていただきたいと考え、		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や髪飾りなどその方の好きなものを選びたいと考え、		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから片付けはご入居者様と行なっていますが、今後、買い物機会を増やしていきたいと考えています。	出来る人は下膳や食器洗いのほか、盛り付けも手伝っています。各階に主に取り組む利用者がいて、エプロンをつけかきがいしく立ち働く様子を視認しました。職員が上手に会話を受け渡して、笑いの絶えない食事の時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、お一人お一人の状態を共有しながら支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人お一人に合わせてご入居者様ができる限りご自分で行なえるよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、お一人お一人のパターンを把握するよう努めています。	排泄チェックに基づきタイミングのよい誘導に努めています。チェック表の推移から考察、検討、試用を繰り返した職員努力もあって、尿失禁が減るとともにパットの消費も減りました。夜間には鈴を鳴らして知らせてくれる利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事量、活動量から考慮し、看護師とも相談しながら支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤の活用をしています。同じ部分の洗身が続けてしまわれえる方には声をかけ、のぼせないよう支援しています。	週2回をめやすにしていますが、希望があれば毎日入浴できます。風呂の湯は人毎に入れ替えていて、入浴剤は好みのものを選べるようになっています。必要に応じて清拭に切り替え、滞留中の看護師に手伝ってもらうなど、臨機応変に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、対応するよう心がけています。リビングが落ち着く方には夜間でもリビングのソファで過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加、変更なども書面で共有しています。更に服薬への理解を深めていきたいと考えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様のやりたい事、できる事を把握し、お一人お一人に合った楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や、外出の個別支援を心がけています。ご家族の協力にて外出などを楽しまれていらっしゃる方もいらっしゃいます。	おやつなどを職員と買い物外出することもあります。誕生日プレゼントとして、想いを叶える個別ケアに取り組んでいて、職員と出かけることが増えています。また、アサリ祭りや七夕まつりなど、地域の祭りや行事には積極的に出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のきぼうにより、小額を小銭入れで所持されている方がいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけていただいたり、手紙を出したり支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での生活を意識し、さりげない装飾を意識しています。室温を快適に保つ為にエアコンや、衣類の調整を行なっています。	温・湿度計を置き全体に気遣うとともに、感温に個人差があるため衣服で調整しています。畑で収穫した野菜のかたちを眺めて楽しんだり、「三保きれいにし隊」活動で集めた貝殻や流木が戦利品のように誇らしく置かれ、日頃の関わりの深さが滲んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性に注意しながら、ご本人の意思で過ごせるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れたものをご自宅から持ってきていただき、ご自分の居場所(家)であり、安心できる場所であることをかんじていただけるようご家族などと相談しています。	若いころから使っていたと思われるタンスもあれば、入所時に購入したのではと感じるソファやテレビもあります。観葉植物や家族写真など思い思いのものが置かれ、生活を楽しむ様子が伝わってきました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事、やりたいこと、支援すればできる事を把握し、安全になるべくご自分の力で生活できるよう支援しています。廊下の掃除が好きな方が自らほうきとちりとりを持ち掃除をしてくださいます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201025		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム三保松原 (2F あやめ)		
所在地	静岡県清水区三保2432-2		
自己評価作成日	平成24年8月10日	評価結果市町村受理日	平成25年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先: x.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホーム三保松原は、その都度入居者様の立場になって考えること、全体研修などを重ねてスタッフ一人ひとりのレベルを向上させることが、入居者様、ご家族様の幸せ度、満足度の向上に繋がるということを認識し、グループホームとして、入居者様が安心してご自分の自宅と変わらないような生活を送っていただけるようにお一人お一人の想いを、私達スタッフが共有し、さりげなく支援させていただきたいと考えております。地域との交流や清掃活動も継続し、地域の皆様からも必要とされるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

風光明媚な松原を抜けると、モダンなミニ庭園と貝殻で作ったウエルカムボードが訪問客を出迎えています。施錠のない玄関を進むと、職員の快活な声と笑顔でさらに「歓迎の意」を受けとめ、気持ちよく訪問・滞在できる事業所です。利用者のモチベーションを上げるために職員が制作したボードや移動の際の声がけなど、機能訓練やADL維持を大仰に掲げているわけではありませんが、随所に丁寧な取り組みがみられます。また、利用者を交えた掃除を行事化していて、楽しく取り組む一方で衰えのある動きがあれば対策を講じる機会としています。通りすがりに手を握ったり、用事をお願いするなど、集団の中にあっても独りになっている利用者への細やかな気遣いも感心したことの一つです。職員指導が丁寧になされていることとチームワークの高さに秀でていることを十分受けとめることができました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフが運営理念に基づいた credo を所持すること、出勤時に唱和することで、運営理念を意識するよう心がけています。	「身につける3つの力」「5つの習慣」「全社員への約束」など法人本部が推進する大切なことを全職員が携帯し、また全体会議でテストを繰り返し、共有化しています。職員の言動にも変化成長が現れてきているとのことです。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、近隣の小学校や保育園との交流を図り、地域の一員として暮らせるように努めています。	海岸のごみ拾いを定期的におこなう「三保きれいにし隊」を立ち上げて3年目となり、地域の清掃でも声を掛けてもらえるようになっています。また、小学校の学習発表会や運動会に招待してもらったり、園児の訪問があるなど双方向の交流が定着しています。	隣近所が少ないため地域を広域にとらえることも一考です。例えば、今後は企業との協力関係を築くことも期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所から地域への発信はまだ不十分です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、サービスや地域とのつながりの向上に努めています。	議事録を事業所内に掲示、情報を共有しています。運営推進会議では貴重な意見が挙がっていて、運営に役立っています。例えば、DVDを使った防災の勉強会も会議での意見交換がきっかけとなったものです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類の提出以外では積極的に交流は図れて居ないのが現状です。	市が発行する「介護相談員だより」などの情報紙や研修会の案内を事業所内に掲示しています。介護相談員も受け入れています。利用者の話し相手のほかにも事業所へのアドバイスももらえ、運営に活かしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的研修を行ない理解を深めています。各ユニットのドアの開錠時間も徐々に延ばしています。	法人本部の方針を携帯し、また実践に反映させていくなかで、職員一人ひとりの自律が育っています。ニュースで取り上げられた事例を皆で話し合ったり、知識テストを繰り返し、自らを振り返る機会をつくるよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的研修を行ない理解を深めています。各ユニットのドアの開錠時間も徐々に延ばしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度をご利用されているご入居者様はいらっしゃるが、制度の内容を理解しきれていないと思われるので、今後、全体会議のテーマとして勉強会を開催していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明をさせていただき、納得していただいていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年アンケートを実施し、いただいたご意見から改善を図っています。	法人本部で年1回アンケートをとっていて、要望については課題として速やかに取り組んでいます。内装業の家族が竹をアレンジした壁掛けや置物をつくってくださっていますが、これは「飾りたいものがあるんですが…」との事業所の投げかけから始まったもので、双方の協力関係が覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年アンケートを実施し、改善に向け取り組んでいます。	全体会議と各ユニット会議があり、職員の主な意見を収束しています。1階と2階の職員を入れ替える試みは、全職員で18名の利用者と関わっていきなさいとの管理者の想いからですが、「目線を変えた意見や提案がでるのでは？」とのねらいもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者とスタッフの会話の時間をできるだけ作り話しをしたり、必要に応じて個別の面談を行なうなど取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では毎月の全体研修を行ない、又、外部の研修へはシフトの調整がつけば参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、管理者同士の交流にとどまっているが、今後はスタッフ間での交流を図れるようにしていきたいと考えています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを何度か実施してご本人のニーズを把握して安心してご入居していただけるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居に至るまで何度か機会をもち、要望、ニーズ等を引き出せるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム長、ケアマネージャー、ご本人、ご家族様で話し合い、必要な支援を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは、自宅での生活の延長上にあり、自宅で過ごすのでできる限り同じ間隔で居ていただくこと、スタッフはそれをさりげなく支えさせていただく黒子のような立場にいる事を意識してケアできるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の協力なしでは、ご本人様の満足は得られないと考えていますので、毎月の手紙や、電話、面会時なども声をかけさせていただき、情報を共有し、より良い関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出など、馴染みの関係が途絶えてしまわないように配慮しています。	実家に帰ることもあれば、また墓参や外食など家族が日常的に関わってくれているため、在宅の延長線にあるかのような関係が結べています。在宅時からの趣味の継続で居室にプランターをおいたり、好みの銘柄の新聞をとっている利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の相性や性格なども考慮しながら、スタッフが潤滑油になれるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人に面会をさせていただいたり、電話などで連絡を取らせていただいたりと必要に応じて契約終了後もできる限りの支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の想いの理解、把握をホームのビジョンと掲げ、全スタッフがその都度考えるよう努めています。	「個にスポットをあて、それを集団に投げかける」「集団における個それぞれを尊重する」といった質の高い技術をもって、笑いの起こるリレーションができています。職員の言動で気づいたことは直ちに指導しているとのことですが、それをさらに研鑽しているであろう職員に感心しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント、入居後もご本人、ご家族からの情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、日報等を活用し、日々の変化を共有しながら把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者(ケアマネージャー)が中心となり、サービス担当者会議や日々の意見交換からご本人にとって必要なケアプランになるよう努めています。	これまでも担当制がありましたが、担当者に家族と積極的に会話をもってもらうことを始めています。適正な運営をめざし、方法は常に検討しています。その中で「担当者は気づきシートを作成した後、ユニットリーダーとマンツーマンで話し合い、ユニット会議にのせる」という方法を確立しつつあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報、介護記録、申し送りノートを活用し、情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービスにならない様に、グループホームで生活する意味、個別支援の重要性を認識し、できる限り柔軟に対応するよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、散歩、外食、清掃活動など地域に積極的に出かけられるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と連携を密に取り、ご本人に必要な医療が受けられるよう支援しています。	在宅時からのかかりつけ医の場合は家族が付添っていますが、必要に応じて書面を渡したり、管理者が同行し説明することもあります。協力医の往診が月2回、契約看護師の訪問も週2回あり、健康管理に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が正確な情報を得て判断できるように看護師の出勤時、もしくは電話での相談にて情報交換、情報の共有を心掛けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も頻繁に面会をさせていただき、病院NsやDr、ご家族様と情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に重度化された場合の指針を説明させていただいています。ご本人様の状態に応じて主治医、ご家族様と相談を重ねて対応を決定しています。	医療行為が必要になった場合は事業所での継続は難しく、他をご紹介することは家族の合意を得ています。老衰が緩やかに死に向かうといった看取りについては、家族の意向にできる限り応えたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフが同じように対応できるよう全体研修を続けていく必要があると思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の際は屋外、地震の際はホーム2Fへの避難訓練を実施。地域の防災訓練への参加も重ねているが、地域性を考えると自衛の為に訓練を強化していきたい。	外に誘導することを実施するために、1階が発生場所という訓練に繰り返し取り組んでいます。今後は散歩を兼ねた避難訓練をおこなうことを検討しています。近くのデイサービスが開催する防災訓練に誘ってもらい、協力関係も芽生えてきています。	近隣に住宅が少ないため、事業所や消防署など関係機関、団体と連携した取り組みについての検討も期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の性格や生活暦を把握し、尊重して支援させていただきよう心がけています。	利用者に関心をもって接することで自然な形で気づきが生まれると考えているため、職員には「関心をもつように」と、常に言い続けています。トイレのドアを開けておく必要のある利用者のために、防火カーテンをつけ羞恥心に気遣った例もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様の想いを尊重できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅で生活をするのと同じように暮らし、感じていただきたいと考え、		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の趣味を考慮し福を選んでいただくようしえんしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りから片付けはご入居者様と行なっていますが、今後、買い物のお機を増やしていきたいと考えています。	出来る人は下膳や食器洗いのほか、盛り付けも手伝っています。各階に主に取り組む利用者がいて、エプロンをつけかいがいしく立ち働く様子を視認しました。職員が上手に会話を受け渡して、笑いの絶えない食事の時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、お一人お一人の状態を共有しながら支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人お一人に合わせてご入居者様ができる限りご自分で行なえるよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、お一人お一人のパターンを把握するよう努めています。	排泄チェックに基づきタイミングのよい誘導に努めています。チェック表の推移から考察、検討、試用を繰り返した職員努力もあって、尿失禁が減るとともにパットの消費も減りました。夜間には鈴を鳴らして知らせてくれる利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事量、活動量から考慮し、看護師とも相談しながら支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤の活用をしています。入浴があまり好きではないご入居者様への対応に苦慮していますが、相性などを考慮し対応しています。	週2回をめやすにしていますが、希望があれば毎日入浴できます。風呂の湯は人毎に入れ替えていて、入浴剤は好みのものを選べるようになっています。必要に応じて清拭に切り替え、滞留中の看護師に手伝ってもらうなど、臨機応変に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、対応するよう心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の追加、変更なども書面で共有しています。更に服薬への理解を深めていきたいと考えています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様のやりたい事、できる事を把握し、お一人お一人に合った楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物や、外出の個別支援を心がけています。ご家族の協力にて外出などを楽しまれている方もいらっしゃいます。	おやつなどを職員と買い物外出することもあります。誕生日プレゼントとして、想いを叶える個別ケアに取り組んでいて、職員と出かけることが増えています。また、アサリ祭りや七夕まつりなど、地域の祭りや行事には積極的に出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出かける際にお金を所持していただき、1週間に1回ほど、ご自分で買い物される方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけていただいたり、手紙を出したり支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での生活を意識し、さりげない装飾を意識しています。室温を快適に保つ為にエアコンや、衣類の調整を行なっています。	温・湿度計を置き全体に気遣うとともに、感温に個人差があるため衣服で調整しています。畑で収穫した野菜のかたちを眺めて楽しんだり、「三保きれいにし隊」活動で集めた貝殻や流木が戦利品のように誇らしく置かれ、日頃の関わりの深さが滲んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性に注意しながら、ご本人の意思で過ごせるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れたものをご自宅から持ってきていただき、ご自分の居場所(家)であり、安心できる場所であることをかんじていただけるようご家族などと相談しています。	若いころから使っていたと思われるタンスもあれば、入所時に購入したのではと感じるソファやテレビもあります。観葉植物や家族写真など思い思いのものが置かれ、生活を楽しむ様子が伝わってきました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事、やりたいこと、支援すればできる事を把握し、安全になるべくご自分の力で生活できるよう支援しています。		